

各関係機関団体の長

殿

各病虫害防除員

福岡県病虫害防除所長
(福岡県農林業総合試験場病虫害部予察課)

平成26年度病虫害発生予察速報第4号(トビイロウンカ)について

トビイロウンカの発生は、8月2半旬の現地ほ場調査では平年並みの発生ですが、地域やほ場による差が大きいので、今後の発生に十分注意して下さい。また、最新の気温データを基に発生予想パターン図を更新しましたので、今後の防除対策の資料として活用願います。

速報 第4号

- 1 作物名 水稻
- 2 病虫害名 トビイロウンカ
- 3 発生地域 県下全域
- 4 予想の内容 発生量：平年並、前年より少
発生予想パターン：技術情報第1号での予想よりやや遅延

5 予想の根拠

- (1) 8月2半旬の調査の結果、10株当たり成幼虫数(密度)は0.76頭(平年1.19頭、前年2.61頭)で、平年並、前年より少。発生ほ場率は27.8%(平年43.4%、前年63.8%)で平年、前年より少であった。(ただし、調査地点数18カ所中、1カ所で要防除水準に近いほ場もみられた。)
- (2) 発生予想パターン図を8月10日までの気温データを基に作成した結果、特に7月下旬の高温の影響によるウンカの発育遅延が予測されたため、防除適期は当初の発生予想パターンに基づく時期よりやや遅くなると予想される。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 7月4日、13日飛来の第2世代若齢幼虫期を中心に防除を行う(別紙:飛来に基づく発生予想パターン図参照)。
- (2) トビイロウンカはセジロウンカに比べて飛来量は少ないものの、通常、飛来後の増殖率は極めて高く、今後、その密度が急激に上昇する危険性がある。また、地域やほ場による発生の差も大きいので、ほ場における発生状況に十分に留意し、適期に防除する必要がある。
- (3) 無人ヘリコプターによる防除を実施する場合は、気温が高くなる前の早朝に実施する。気温が高い時間帯に実施すると、薬剤の種類によってはイネの株元に到達する前に蒸発して防除効果が著しく低下する場合がありますので留意する。
- (4) 防除に当たっては、農薬使用基準(使用時期、使用回数等)を順守する。
- (5) 今後の発生状況については、防除所ホームページ(<http://www.jpjn.ne.jp/fukuoka/>)を参照する。

トビイロウンカ 8月2半旬までの推移

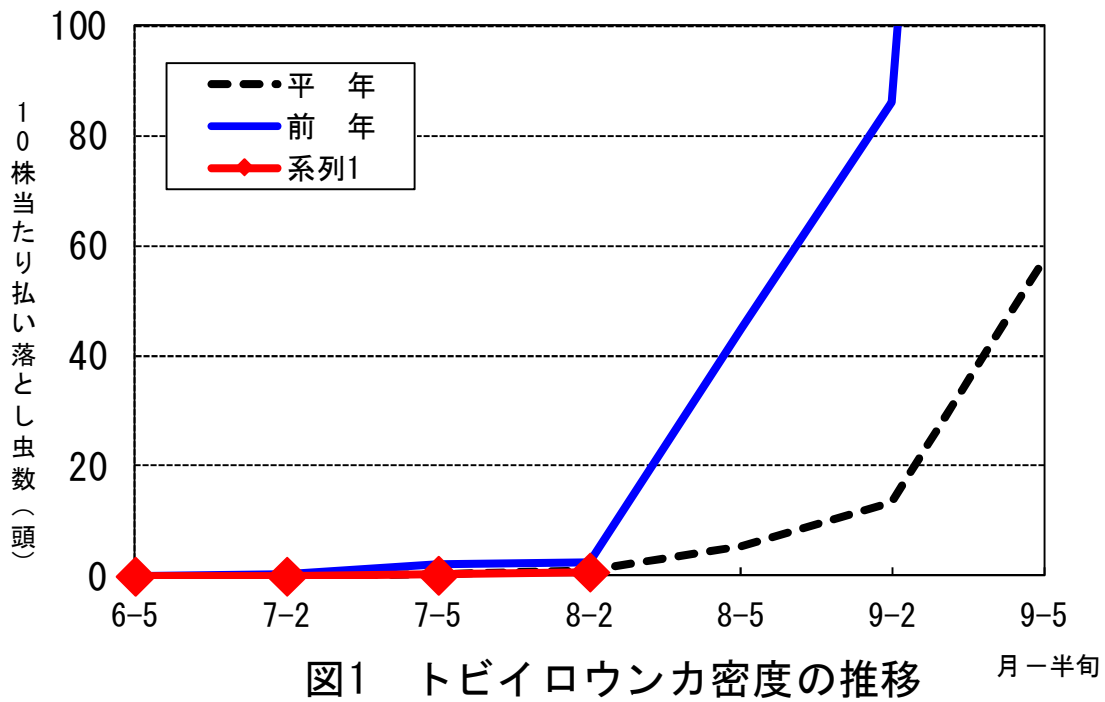


図1 トビイロウンカ密度の推移

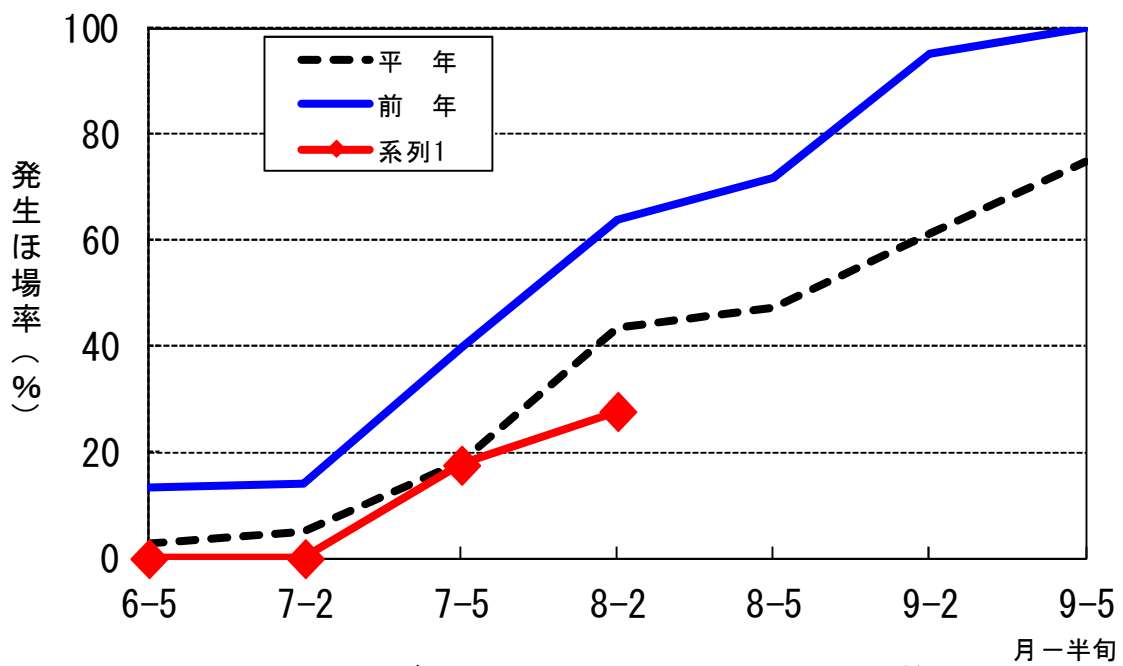
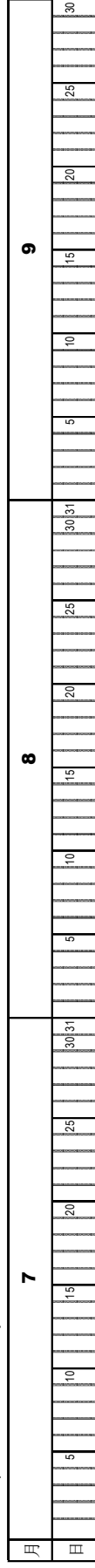


図2 トビイロウンカ発生ほ場率の推移

飛来に基づくトビロウソウカの発生予想パターン図

図1 飛来に基づくトビロウソウカの発生パターン図 (平成26年8月11日作成)

7/4飛来 7/13飛来



7月4日
飛来

成虫	卵	第1世代幼虫	成虫	卵	第2世代幼虫	成虫	卵	第3世代幼虫
----	---	--------	----	---	--------	----	---	--------

7月13日
飛来

成虫	卵	第1世代幼虫	成虫	卵	第2世代幼虫	成虫	卵
----	---	--------	----	---	--------	----	---

(注) (1) JPP-NETの有効積算温度計算シミュレーションを用いて算出。発育零点12.0°C、発育上限温度28.5°C、発育停止温度33.0°C、有効積算温度(成虫期間100.0°C、卵期間109.4°C、幼虫期間189.4°C)

(2) 気温はアメダス太宰府を使用。